

子どもの可能性が広がる「夢の宝島」

早島町教育委員会教育長

徳 山 順 子



「こんな小さな町にようこそお越しくださ
いました。」初めての土曜はやしま塾で、中三
の生徒に自己紹介をしたとき言われた言葉。
早島につく「小さな」という形容詞が印象に残
った。岡山県で一番面積が小さいけれど人口
密度が一番高い町。彼が込めた「こんな小さな」
という言葉にどんな意味があるのだろうか。
小さいからこそ、世界が学びのキャンパスと
なる学校づくりがしたい。小さいからこそ、夢
や志、広い視野やたくましい心が育つ教育が
したい、生徒の言葉に私の夢が膨らむ。
昔は吉備の穴海であった早島は、岡山城を
築城した宇喜多秀家が干拓を命じ、汐止め堤
防の「宇喜多堤」を造った。何度も津波に流さ
れながらも「希望のくい」を打ち続けた先人た
ちの試行錯誤の日々は、児島湾干拓の幕開けで
あり、壮大な挑戦の始まりでもあった。先人の
努力に、今の早島があることを誇りに思う。過
去の歴史や文化を振り返り、現在を見つめ、持
続可能な未来を創造する国際人としての基礎
を培いたい。早島の歴史を鑑みると、教育長
として身が引き締まる思いがする。

夏季研修で、全教員が九グループに分かれ、
地域の観光ボランティアの方と早島を巡り、
宝物を見つけてくる。光る汗と一緒に早島の
魅力を体感する一時であり、校種を越えた教
員交流を通して、タブレットで紹介用のプレ
ゼンをその場で作成し、互いの早島の宝を発
表し合う。その発表を聴いていた地域の方が、
「長年ここに住んでいるけれど、こんな宝物が

あったとは。先生方の発表で改めて早島のよ
さを発見した」とつぶやく。地域フィールドワ
ークをしている途中、声をかけてくださる方
が増えてきた。夏の暑さに負けないぐらい心
が熱くなる。ESDの視点を踏まえて総合的
な学習の時間等のカリキュラムの再構築を行
い、探究活動の質の向上に取り組む中、子ども
たちのアイデアや発想力には感心する。子
どもと大人の意見交流の熟議、子ども議会や
子どもフォーラムでの地域への提案は力強く、
未来への夢が広がる。持続可能な早島の教育
の実現に向けて、小中一貫教育での「社会に開
かれた教育課程」を全教員と一体となつて創
っているが、先生方のパワーもすばらしく、頭
が下がる。まさに「夢の宝島」。

夢は広がっていくもの。幼稚園の頃ずっと
ウルトラマンになりたいと言っていた彼は、
医学のためのロボット開発をするという。月
に行きたいと言っていた彼女は、工場宇宙
船の小さな、でもなくてはならない部品を作
っている。どんな夢も「けなすな 励ませ」。私
も夢を追い続けたい。

岡山は桃太郎の故郷。桃太郎のお供は犬と
キジと猿。犬は陸を走ることができる。キジは
空を飛ぶことができる。猿は木から木へと飛
び移ることができる。まさにそれぞれが違つ
た力を持ち、違つたことを得意としている。互
いの違いを認め、大切にすることで、仲間と宝
物を得ることができると。岡山山の教育への
情熱と底力を信じている。